

「新しい前進」

会長 三品 優次



TAKIKAWA ROTARY CLUB

本日は 第2901回 例会
プログラム
純国産ウイスキーの誕生と竹鶴政孝の紹介
No.2728 11月20日(木)

次週以降の予定
11月27日(木)ジャズピアノ演奏
12月4日(木)年次総会
12月11日(木)忘年会(夜間)

第2900回 例会報告

2014年 11月13日(木)

会長挨拶・報告



永田町に突然吹き始めた衆院解散風に驚いている所です。景気回復のもたつき感のため、来年に予定していた消費税の再増税を先送りの可能性が出て来て、先の三党合意の社会保障と税の一体改革が実行出来ず、さらには法律の改正も必要になるので、国民に信を問うというのが理由だと思えますが、今政権が強いから解散し、今後4年間の保障を取り付けるのではなく、たとえ消費税10%見送りであっても、以前国民に約束した年金や子育てなどの充実や円安の進行により輸入価格の高騰で影響を受けている中小企業への考慮、又地方創生の声を発して何もしていない地方への目配りをしていただきたいと感じています。

幹事報告



①砂川・芦別・美唄・留萌RCより会報が届いております。
②12月7日に開催される、滝川市歳末たすけあい赤い羽根歌謡大会の入場チケット販売依頼がまいりました。各テーブルに廻しますので、お名前と枚数をご記入ください。ご協力をお願い致します。

先週のプログラム

《出席委員会担当例会》

ーゲスト卓話ー



出席委員会 山崎 修 委員長

本日は、ニセコリゾートサービス代表で倶知安町の町議会議員をお迎えして、グローバルに変化を続けるニセコについてお話しをして頂きます。よろしくお願ひ致します。

「二世古からNISEKOへ」



(株)ニセコリゾートサービス代表

田中 義人 様

皆さん、こんにちは。只今ご紹介に預かりました、ニセコエリアの倶知安町で町議会議員をしており

ます田中と申します。(一社)倶知安観光協会とニセコプロモーションボードの統括業務執行理事も務めさせて頂いております。今日の話が、今後の滝川市の発展のヒントや一助にして頂ければ幸いです。それでは、早速始めさせて頂きます。

倶知安町とニセコ町にまたがるアンヌプリを中心に広がるエリアを「ニセコ」と呼んでいますが、3次産業、観光に関わる産業が主産業となっております。

倶知安町にある「ニセコひらふ地区」は特に宿泊施設が多く、保健所の届出ベースで7,500ベッドがあります。メインは冬のスキーシーズンですが、現在夏季の7~9月にはおよそ500組の長期滞在のご夫婦がコンドミニアムに滞在されています。理由は「涼しい、ここをベースに色々な所に遊びに行ける事。夏休み時期には孫達も泊まりに来て喜んで」との事。車で2時間圏内には、これほどのバリエーションに富んだエリアです。

外国人の観光客、特にFITと呼ばれる個人旅行者の外国人が多く訪れるエリアですので、東日本大震災後はやはり大幅に落ち込みました。しかし昨年度は過去最高の来訪者になり、今年の冬は予約状況から更に増えていくと見込まれています。円安も受け入れ側にとっては有利な条件となります。入り込み数では札幌、函館に次いで3位、外国人の宿泊延数で言うと札幌に次いで2位となります。倶知安町、ニセコ町を併せても2万人程度の小さな町ですから大健闘していると思います。

そしてもう一つ、注目されているのが「外資による投資」です。この数字のように10年間で250億程の投資・開発が行われ、北海道経済産業局の調べでは、平成18年単年度の経済波及効果は230億円にのぼると報告されています。ニセコが注目される理由は、こんな小さくてお金も無いエリアに外国人観光客がこれ程訪れる事と、外資による活発な開発の2点があり、国内では他に例を見ないからでしょう。外国からの観光客の50%はオーストラリア人です。次いで香港、シンガポール、マレーシア、ヨーロッパ、アメリカとなります。外国人スキー客が増えたきっかけは、北米スキーリゾートへスキーに行っていたオーストラリア人が、米国へのテロをきっかけにニセコに来た事でした。

自らのマーケティングやセールスの賜物ではなく、外的要因によって、たまたまきっかけが作られた(笑)という事です。しかし、雪質は最高。日本人はフレンドリー。彼らからすると、安近単だったんですね。

コンドミニウム、日本語で言えば「リゾートマンション」についてですが、私は2003年の全日本大会を最後にニセコヒラフの実家に戻りました。ペンションをやっていましたが、この頃は日本のバブル崩壊後、集客数が減る一方で他の地域と変わらず疲弊していました。私は宿泊業を継ぎたくないという親不孝者で、結果土地・建物全てオーストラリア人に売却して、親はそれを退職金として札幌に移住しました。その頃から、同じように跡継ぎのないペンションのオーナーさん達は売却して都市部へ移住する方が増えてきました。それと比例して、コンドミニウムの件数が増えていったと言う事になります。

外国人の観光客が増えると移住者が増えます。そして、外国人住民が増えると外資系の法人も増えます。そしてこれが現在の様々な問題に繋がっています。例えば、教育の問題。地域にある小学校の分校は、全生徒29名のうち9名がハーフや日本語を話せない外国人の子供。それに対応するために、英語を話せる職員を特別に増員してもらっています。更に、労働者の問題。先に有効求人倍率が2.8倍と話しましたが、観光関係では英語を話さなければ仕事には就けません。結果、事業主は英語を話さず後刻人を雇う事になり、自国から連れて来る事業者も少なくない。結局、外国人の外国人による外国人の為の草刈場となってきていると言わざるを得ません。

結果、不動産所有者の80%は不在で、ほぼ外国人になってしまいました。このままでは、エリアは草刈場としか存在できなくなり、経済効果の殆どを海外に持っていかれてしまう。その問題に対応するため、地域住民等で3年前に「ニセコひらふBID検討委員会」を立ち上げて、エリアマネジメントに関してどう行っていくか、行いたい事業の財源をどうするかを話し合ってきました。そして、今年の9月に「倶知安町ニセコひらふ地区エリアマネジメント条例」を議員提案で可決。これは基本条例としての位置付けで、今後は指定地域内からどのように財源を徴収していくかの条例が制定されていきます。そして、最終的にはこれ等の動きを町全体に広げて行こうと考えています。

経済域内循環率を高めるためには、草刈場にされることなく、観光客や投資の消費を上手にエリアで受け止めていく仕組みや工夫が必要と考えられます。例えば、エリアに7,500ベッドあっても、ひらふエリア内の飲食店の席数は足りません。恐らく2000も

無いはずですが、それをしっかりと市街地で補完して消費を促すようする。そういった事の積み重ねと、エリアマネジメント条例を利用した商売に繋がる積極的な自治活動を行うこと。こういった仕掛けと、10年後には来る予定の高速道路と、19年後には来る北海道新幹線をきっかけに、市街地のマスタープランを作り始めています。こういった、国策に絡むようなインフラ整備が行われるという点では、明るい未来が見えている町です。その周辺の土地も今は外国人が買い始めていますが…。

最後になりますが、まとめとして。ニセコからNISEKOへ。カタカナから英語に変わるという事は、実は大きな意味がありました。オーストラリア人をきっかけに始まったグローバル化は、今はアジア等に広がっています。先に述べた多くの課題が顕在化してきました。ニセコは今、ローカルがグローバルに飲み込まれてしまう事がどれ程簡単な事か実感しております。これは、失敗例として皆様には是非覚えておいて頂きたいと思います。しかし、最後に申し上げた新たな制度などで「外資との共生」を図るために頑張っております。

ニセコBOX

宇山 昌宏 会員

田中義人様を迎えて。

松原 章 会員

中空知地域職業訓練センター協会、創立30周年式典を無事終えて。ドリームカムカムの演奏有難うございました。

西井 勝明 会員

冬の交通安全11日から始まりました。会員の皆様の旗の波運動への参加有難うございました。

吉田 正治 会員

結婚記念日にお祝いを頂いて。

山口 清悦 会員

結婚記念日にお祝いを頂いて。

山崎 修 会員

担当例会を終えて。

会長／三品 優次
幹事／深澤 和範
編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30

例会場●ホテルスエヒロ

事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16

TEL (0125) 22-3344

FAX (0125) 24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。